厨房見聞録 bien

ビアンの惣菜系パンご紹介　第二弾!!

「Café＆Bakery　ビアン」は、11月で改装1周年を迎えました。感謝を込めて、お買上げポイントカードの発行や、月1回の特売（原則第二水曜日）のサービスも実施していますので、なお一層のご利用をよろしくお願い申し上げます。今回も引き続きビアンの「惣菜系パン」をご紹介します。ぜひ、お買上げご賞味ください。

■ オリジナル三角サンド…200円

ボリューム感があって、たまご、ポテト、ハムなどの異なる味が楽しめます。スタッフのM君手作りのオリジナルです（月・土曜日はありません）！

オリジナル三角サンド

ピザトースト（左）/ エッグトースト（右）

■ピザトースト…130円/1ヶ・エッグトースト…120円

トーストにオリジナルのソースがのった「ピザトースト」。トーストに玉子の目玉がのった「エッグトースト」。ボリューム感があってビアンの人気商品の１つですが、時間が経つとパンが固くなるので、レンジで“チン”すると、美味しく食べられます。

■コーンマヨネーズ/エッグハムロール…130円

ハムロールベースのパン生地にコーンマヨネーズ、あるいは玉子スプレッドをのせたもの。コーン、玉子、ハムの食感がそれぞれ味わえます。

コーンマヨネーズ（左）/ エッグハムロール（右）

じゃがミートソースパン

■じゃがミートソースパン…120円

じゃがいもとミートソースが絡んだ具材をパン生地で包んだパンです。

■コロッケ風ドーナツ…100円

コロッケをパン生地で包んだものを油で揚げたパンです。

コロッケ風ドーナツ

プチパン

■プチパン…40円（3ヶ100円）

食事用のプチパン。ごま、プレーン、バジルの3種類があります。具材を挟んでプチサンドにしてもおいしいです。

ビアンは、地域のみなさまに気軽にご利用いただけるようにホットコーヒー1杯を200円で提供！　美味しい焼き立てパンは1個100円から各種提供！　障がい者作業所のクッキー販売支援！しています。

新生 Café＆Bakery ビアン bien

●営業日：月～土曜日（日・祝日定休日）
●営業時間：8：00～17：00
☆モーニングサービス：8：00～10：30
〒557-0025 大阪市西成区長橋3丁目7-28
（tel/fax）06-6568-3443

発行日　2012年12月１日
創刊日　2007年１月１日
発　行　株式会社ナイス
発行人　代表取締役 冨田一幸
印　刷　㈲前山企広
住　所　大阪市西成区長橋3-6-33
電　話　06-6563-1156
E-mail　info@nice.ne.jp
H　P　http://www.nice.ne.jp/

歳末の新世界風景

友織者たち１／塀を越えて

益子千枝さん（よりそいネット大阪）

いま私たちのまちは西成特区構想で喧（かまびす）しいですが、行政や有識者会議のもくろむ街づくりの方向性が示されました。そんな潮流だけでなく、今回はこれまで地道にまちとかかわり続けてきた友人たちをご紹介します。一言でいえば人間に寄り添うことを得意とするスペシャリストたちのダイアログです。人とのかかわりをまるで縦糸横糸を組み合わせて織るように、あるいは心の調和をはかるようにしてまちを縦横に飛び回る人たちです。そこでなび版「友織者（ゆうしきしゃ）会議」をシリーズで特集してみました。

インタビュアー：佐々木敏明　/　記録：安田壽斗

佐々木：２００９年に「よりそいネットおおさか」が発足し、矯正施設などの退所者の社会的受け皿作りとして注目された。及ばずながら「くらし応援室」もお手伝いをしているが、その後「地域生活定着支援センター」という事業がスタートした。とくに「よりそいネットおおさか」の益子さんは、相談業務を役割として、刑務所、保護監察官、弁護士らと刑務所退所者たちとの接着役として活躍する。

益子さんは、全国の刑務所を回り、それぞれの刑務所が持つ課題などを聞くことが多いと思うが、とくに課題となるものは何か？

益子：「よりそいネットおおさか」が発足した時は、「刑務所が福祉施設化している」「福祉の支援が必要な出所者の放置」という問題提起があちこちでされていた。元国会議員の山本 譲司さんが自らの獄中生活を元に記した「獄窓記」であったり、南高愛隣会の「罪を犯した障がい者の地域生活支援に関する研究」もあったり、ホームレス支援現場では前科のある方も多くいたので、支援者としては、共感性の高いテーマだった。でも、実際に福祉と司法の橋渡しをする仕事をはじめると、やっぱり多くの課題に出会った。特徴的なのが情報共有の難しさゆえなのか、刑務所が持つ当事者の情報は簡単には入手できない。当事者が出所しても、事前の情報不足で必要な手続きに手間取ることもある。刑務所にいる限り住民票が取れず、出所してから住所設定をすることになる。生活保護を申請しても２週間はかかってしまう。アパートを前倒しで貸してくれたとしても、その日からの生活費が必要で、出所時の手持ちがわずかな場合は、たちまち生活に困窮する。刑務所も放置しているわけでなく、刑務所側は、住民票を刑務所に置かせてあげたいと思っても、当該自治体に反対されることもあるようだ。自治体に反対されると、刑務所側は強く言えない状態になってしまう。となると、出所後の生活で福祉サービスが必要と思われても、手帳取得や介護認定などもできない。こちら側がアセスメントをし、方向性を決めたとしても、刑務所内にいる限り、時間があっても制度を利用する準備はできない。

佐：２０１０年の活動方針の中に、「刑余者支援における大阪モデルを発進していく」という条文があるが、「大阪モデル」といわれる具体的お手本が存在するのか？

益：モデルというより、大阪の特徴として、独特な支援体系があるのではないかと考える。「地域生活定着支援センター」の事業には、大きく分けて特別調整*、つまり対象者へのコーディネート、フォローアップと相談業務があり、他府県では特別調整にかかわる部分が圧倒的に多いが、大阪では相談業務が７０％以上で特別調整の２０～３０％を上まわっている。つまり現場レベルの関心が強いということが大阪の特徴であり、「よりそいネットおおさか」が果たしている役割も大きい。「よりそいネットおおさか」はいまだ任意団体で、組織としての形は未整備だが、刑余者支援への共感で、いろいろな支援経験のある団体が加入するネットワークが構築されている。地域生活定着支援センターで受けた相談をこのネットワークで解決しようとする姿勢が現

場レベルのサポート力を担保する１つの力だと感じる。

＊●特別調整＝矯正施設などに入所中の人に対し、大阪保護観察所、他定着センターから依頼され、福祉サービスが必要と思われ、かつ希望してくれる高齢者者、障害者への生活環境調整をする。
●相談支援業務＝矯正施設などを退所した人のケアや、支援者からの相談に必要に応じて協働していく。

佐：僕と益子さんがホームレスの巡回作業をしていた頃に、前科のある人たちに出会い、ホームレスになった契機は刑余者の出所後にも問題があり、行き場の無さから遁走するなどと議論したことがあった。刑余者の出所後の生活状況は今も同じか？　僕の事例にもいくつかの遁走があるが。

益：ホームレスに限らず、遁走する人たちはやはり多くいる。これまで３７０人の事例があるが、当事者の生活環境や応援体制を整えていても、遁走する人は減らない。それはその人の生き癖、考え癖が影響されているのではないかと考える。誰にも気にせず自由気ままに生きる生活の裏にも、実は「認知の歪み」が隠れていることがある。いまの福祉制度では「認知の歪み」に対処しづらい。言葉は悪いかもしれないが、本人が制度に従わざるを得ないところがあるので、福祉を使うための制約を受け入れられない場合は、福祉からも遁走せざるを得ない。

佐：そこには依存症の疑いもある？

益：まさにそう。若い頃から刑務所への入退所を繰り返し、犯罪を断続的に続けている方もある（つまり、それが日常の依存状態となって繰り返してしまう）。特別調整では高齢者が多いが、相談業務では３０歳代の人たちも多い。実は、障がいのない３０歳代の支援が一番困難で、使える資源が本当に限られている。それだけでなく、表面化していない「依存」や「認知の歪み」を抱えているケースも多い。

　ただ、サポートする心構えとして、障がいや高齢など表面化しやすい課題だけでなく、個人因子を確認し、環境を整えながらそこのフォローはしっかりやっていきたい。

佐：益子さんの現場的に見た課題を聞かせてください。

益：性的課題をかかえる人への対応に力点を置いている。性犯罪には接触型＊と非接触型に分けられるが、性エネルギーの暴発や欲望の暴力化だけではなく、その人の潜在する怒りや支配欲が絡んでいて複雑な部分がある。とくに１０月から大阪府では、１８歳未満の子どもに対する性犯罪を犯した満期出所者が、大阪府に居住する際に、住所地の届け出を義務付ける「大阪府子どもを性犯罪から守る条例」が全国初で施行された。条例の目的の１つには「性犯罪者の社会復帰支援」もうたわれており、これからの影響は未知数だが、注目していきたい。

＊●接触犯罪＝強姦、痴漢など被害者本人に直接的に接する犯罪のこと。
●非接触犯罪＝下着泥棒など本人に直接的な接触がない犯罪のこと。

佐：益子さんの性的課題に興味を持つのはどんな動機からか？

益：困った問題を持つ人たちに対する共感かな。社会でより受け入れられにくい人たちだからかも。

おわりに

　益子さんは、今もパワー全快で突進している。一緒に野宿地巡回をしていた頃と変わらない。しかしこんな話もしている「支援者というのは、当人を説得する傾向にある。相手に対して正論を話す。場合によっては一人に対し大勢で福祉的正義を延々述べたりするために、当人が冷静に考え、行動を選択する力をうばってしまうこともある。相手を変えようとせず、関係性を工夫することでよい変化が生まれることを期待したい。相手を主語にして、正義を伝えても、受け止めてもらいにくいことがわかった。反対に「私」を主語にして、私の感想や協力依頼、提案をしてみるように心がけている。正しいとか間違っているというような白か黒かのジャッジをやめたい」。

　益子さんが経験してきた人への関わりへの熟成に共感した。それは、私自身の支援嫌いにも当てはまるからだ。それにしても益子さんは昔と変わらず一途やなあ。　（佐々木）

新しいものが幅をきかせ、それまで使われてきた道具は捨てられる
便利さや能率が、文化という人の営みや育みを追い払う
知恵や工夫こそが、生活を支えるみなもとと考えるなび編集子は
かつてわたしたちが活用してきたものたちに登場してもらおうと考えた

第 14 回

消えゆくことば2

下駄

前号にひき続き、私たちの生活から失われていった住居空間や道具にかかわる言葉たちについて考えます。私たちの習慣や行動は、建築様式や家具調度によって生活スタイルを決定づけていました。生活スタイルの変化はすなわち環境の変化であり、身近な住居や家具などが個人のくらしに影響を与えていたのです。

１９５０年代から６０年代にかけ、大阪市住宅協会や日本住宅公団などが発足し、市街地あるいは郊外には、次々に団地が建設されていきました。それでも私が 28 才で結婚するまでは、東住吉区内にある４つの家が軒を並べる、木造２階建ての賃貸民家で両親や妹たちと生活をしていました。

玄関口にはあがり框 (かまち) がありました。どの家も、土間より座敷に上がるには５０㎝ほどの高さがあり、人の歩幅では座敷に上がるのに苦労します。敷地と座敷の間の中間に踏み台様のものが設置されていて、下駄や草履、靴を脱いで一歩だけあがり框に足を降ろすと、次のステップはもう座敷に着地しています。このあがり框は、この座敷に上がるための一歩だけのために存在するのです。また外出する時は、座敷から一歩だけ框に足を降ろすと次のステップは下駄や靴に接し、これもまた一歩のみの役割を担っていました。民家はともかく、多くの住居は団地になって框がなくなり、フラットな空間が運動的刺激をなくしてしまいました。

東住吉区は、市内でも下水整備が遅れたところであり、毎年のように豪雨や台風が来ると必ず床下が浸水しました。玄関でプカプカ浮いている履物をよそに、家族と一緒に雨水をかき出しました。最も浸水がひどかった時は框の高さを超え、畳の下面近くまで雨水が迫りました。よく疫病などが流行しなかったものだと思います。湿気が残るために、快晴の日には床から畳をはずし、外に出し天日で干していた光景を思い出します。

雨水に浮いていた下駄も特別なことがない限り、今ではもう履く機会がなくなってしまった道具だといえます。道路の多くが土面であった頃の履物は下駄が似合っていました。土のほどほどの柔軟さがクッションとなり、下駄を履く感触が快かったのです。また下駄のカラコロという音も優しく聞こえました。しかし道路のほとんどがコンクリートで舗装されてしまった現在、木製の下駄で歩くには路面が硬く、少しばかりかかとや足首に抵抗があります。何よりも下駄のカラコロ音が建物に反響し、うるさくて仕方がないでしょう。しかし、今では下駄で歩く音さえ聞こえなくなりました。

あがり框

我が家には玄関から入ると台所に通じる勝手口がありました。扉を開けるとうなぎの寝床のように細長く、突き当りには風呂場があります。台所には流しや二穴のガスレンジがあり、この二つの間に氷式冷蔵庫が置かれていました。この冷蔵庫は勿論電気冷蔵庫ではなく、氷を入れて冷やすのですが、冷蔵庫というより保冷庫というか貯蔵庫のようなものでした。夏場製氷店のおっちゃんが、ノコで切った氷を金属製のフックに引っ掛けながら各家に配達していました。その氷を氷式冷蔵庫の上段に入れ、下段には惣菜や肉類などを冷やしていたのです。溶けた氷は庫内の排水路を伝い、冷蔵庫の下の受け皿に落ちます。受け皿が水滴を溜めるのですが、水が一杯になると捨て再びもとの位置に戻すのです。今から考えればメンテの面倒な道具ではありました。我が家の冷蔵庫の表面は銅製でところどころ青錆が出ていました。全体はブリキ製で出来ていたと思います。私たちガキどもは、暑い盛りに親の目を盗み、大工道具のキリを持ち出し、カチワリにして口に放り込んだり、コップに砂糖水をいれて氷を浮かべて飲んだりしました。

氷式冷蔵庫

そんな６０年前後の頃、渡辺製菓が販売するジュースの素が喜劇王エノケン（榎本健一）を起用し、ＴＶＣＭで大々的に宣伝されました。「ワタナベのジュースの素ですもう一杯」なんておかしな声で歌っていたエノケンを覚えておられる方も多いでしょう。ジュースといえば５３年から販売され始めた高価なバヤリースオレンジしかなかった時代、安価だったことと顆粒で飲めるというちょっとイージーなイメージに乗せられ、どこの家庭もジュースの素を愛飲していました。しかしその後、人口甘味料としてのチクロやサッカリンを含有していることで有毒性が問題となり、法的規制の中でこれらの食品は販売停止に追い込まれていきます。

食品添加物なんてまったく知らなかったこの時代、無頓着にこれがジュースだと信じて飲んでいたのですが、しかしこの頃、毒性も雑菌も合わせ飲み込んでいたからこそ、変に抵抗力や免疫を養っていた、というのはこじつけでしょうかね。

だろのいい湯かげん

橋下さんが市長を辞めなくて良かった

この拙文がお目に留まる頃にはもう選挙戦の真只中だろうから、ちょっと間の抜けたものになるのを承知で書いている。この選挙のボクの一番の感想は、橋下さんが市長を続けて良かったということだ。ボクの周りは橋下さん嫌いがほとんどだから、敵失を期待するように「橋下は出る」が大方の予想で、一時ボクもそう疑ったが、彼は踏みとどまった。一期はやって、地下鉄や水道やゴミ回収等現業部門の民営化はやり遂げて欲しい。その過程を経ずして「都市経営」の新しい道は拓かれないと、ボクは思っている。

橋下さんはいわばサッチャーで、ボク達はブレアになると、いいとこ取りしてはダメだ。労働党の既得権益と非効率を剥いだのはサッチャーで、その後にしかブレアの「第三の道」は拓かれなかった。リアルな事例を挙げるとひんしゅくを買うが、ボクは、人権博物館（リバティおおさか）の展示内容を否定した橋下さんは NO だが、運営の非効率を断罪した橋下さんは YES だ。非効率（そこには既得権もある）を排さないと持続可能な人権施策は生まれないことはわかりきったことだったが、橋下さんしか実行しなかった。部落解放運動は評価するが、同和対策は利権を産んだから全廃すると言う態度も毅然としている。ボクの㈱ナイスも巷間、同和対策の所産でしかないとか、「地域立社会福祉法人」も同和対策の「手切れ金」でしかないと言われてるし、言われなくても思われている。ここの忍耐が肝だとわからないと、ボク達は所詮、時代の葛藤に咲く「あだ花」でしかない。日本のブレアはもっと先になる。

さて選挙だ。改革の後にどんな道を創るのかと期待もしたが、橋下さんは、あっさり「日本維新の会」を旗揚げし、あっさり石原さんと合流して、うんと右に舵を切った。ひょっとして彼は、所詮改革は権力への「行きがけの駄賃」と思っているのではとさえ疑った。週刊朝日の出自報道への見事な反撃に、ボクが感じた「隙はないが、好きになれない完璧」と同じだ。それでも、ボクは、彼は部落差別と闘ったし、改革者だと評価する。大阪に限られているが、これほどの改革をやったのは橋下さんしかいないから、「維新」は躍進するだろうが、うんと右に行ってしまった国政の「維新」にボクは期待しない。

難しい投票になるが、改革の芽を探すしかない。東京だったら福田依里子さんの「みどりの風」だ。釜ヶ崎を見て、「多くの困難を抱えながらも、現場の状況を踏まえた独自の制度でチャレンジしている地域でもある」という優しい目線が気に入った。ずっと改革者だった中川治さんを応援するけど、ボクは票を持っていない。比例選挙は「オリーブの木」に期待したが、できなかったから、中川さんが行った、好きになれないけど、ブレない「小沢党」を応援する。

㈱ナイス代表取締役 冨田一幸

12月は府営公園で楽しもう！

都市公園管理共同体が管理している大阪府営公園では、クリスマスなどの年末行事を楽しんでいただくために、様々な企画が目白押し！１２月は、府営公園で楽しんでみませんか？

住之江公園

クリスマスイルミネーション

日時：12月15日(土)～1月15日（火）
時間：17:00～19:00
場所：花と緑のスクエア

石川河川公園

クリスマスイルミネーションと流木展

日時：11月26日（月）～12月25日（火）
時間：9：00～19：00
（イルミネーション16：00～）
場所：管理事務所展示ホール

久宝寺緑地

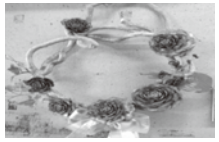
クリスマスイルミネーション

日時：12月1日(土)～3月末予定
時間：17：30～21：00
場所：中地区花の道

長野公園

クリスマスリースづくり

日時：12月16日（日）
時間：9：00～16：00
場所：緑の広場回廊



上記のイベント情報は、１１月末段階のものです。この他にもさまざまな取り組みが予定されていますので、「いこいこ！おおさかの公園」でイベント情報をチェックしてください！

都市公園管理共同体
http://www.toshi-kouen.jp/
いこいこ!おおさかの公園　検索

ピースのつぶやき

ラストスパート

♪ジングルベル、ジングルベル、鈴がなる～♪と、歌いながらマジック片手に、２０１２年最後のカレンダーを見ているお母さん。そして２５日に『クリスマス』と、印をつけた。私はとっさにプレゼントとご馳走と・・・・っと、顔をニンマリしながら空想の世界に入ってしまった。

♪もう～いくつ寝るとお正月～♪と、歌いながらYちゃんが学校から帰って来た。

私は、♪もう～31回朝ごはんを食べたらお正月♪と、替え歌を口ずさんでしまった。

１２月ってなんだか気ぜわしい月だけど、楽しい事もいっぱいあるし、今年の締めくくりの月でもあるし、新年につなげる月でもあるから・・・病気しないで頑張ろう!!と、思っちゃう。

なお愛読の皆さまもお体に気をつけて年の暮をすごしてくださいね。

最後に今年も私とお付き合いしてくださって、ありがとうございましたワンワン!!

MA

北からの通信

北海道札幌市内で、生活困難な人たちをサポートする真鍋千賀子さんから、お便りをいただきました。真鍋さんは「NPO 法人ベトサダ」の代表理事として、就労さえままならない青年たちの居場所づくりをはじめ、脱路上へのサポートを続けておられます。札幌はもう雪の季節です。

路上生活者、あるいは路上生活寸前の方たちの自立支援活動を始めて丸７年、ＮＰＯの認可を受けてから３年が経過しました。ベトサダには年間３００人を超える相談者が訪れます。厚生労働省の調査によるとホームレスの数は年々減少していることになっていますが、ネットカフェ等で生活する、いわゆる「ハウスレス」状態にある生活困窮者を含めると、その数は増加し続けているとしか思えません。また近年の傾向として、若年層の生活困窮者が急激に増えています。ベトサダでは今年、５０歳未満の相談者が全体の７割を超えました。

彼らのほとんどに共通しているのが、家族や家庭をはじめとする他者との絆を失っていることです。頼る場所や人がないということは実は大変深刻な状態です。そんな方たちには、衣・食・住だけを解決する支援では不十分です。大切なのは、いかに「無縁状態」から脱却するかなのです。不安定な雇用情勢のなかでは、就労＝自立にはなりません。「無縁状態」が解消されなければ、仕事が無くなったとき、再び路上生活になってしまう危険があるからです。だから私達は、それぞれに違う人格を理解した上で共に悩み、共に考え、共に笑い、共に動く伴走型の支援を行い、お互いに信頼できる関係作りを目指しています。

東京出身のMさんは３３歳の若者でした。父親の暴力が酷くて家族はバラバラになったそうです。彼は高校を卒業後、東京で販売員として働き、一人で頑張っていましたが会社が倒産、北海道に渡り旅館で住み込みの仕事を始めます。しかしここでも人員整理に遭い、失職と同時に住居も失ってしまいました。その後も何とか仕事を見つけようと、マンガ喫茶やネットカフェを転々としましたがお金がつき、数日間路上生活をしたあと私達の所へ相談に来られました。

ベトサダでは、ベトサダ荘、中間住居、最終中間住居という 3 つの施設を設けており、それぞれに契約期間を定めています。最初に入るベトサダ荘での契約期間は 3 ヶ月で、原則入居料、食費等は無償です。Mさんはこの３ヶ月間で 20 万円貯める目標を立て、入荘から 1 週間後には派遣会社でテレアポの仕事を始めました。毎日休まず就労に励み、3 ヵ月後には目標額とほぼ同額の貯蓄をし、民間アパートへ移られました。

家族のような付き合いをしたいといくら思っても、実際の家族にはなれません。だけどベトサダは、無縁状態からもう一度立ち上がろうとする方々の「ホーム」でありたいと思っています。前述したとおり、非正規雇用での自立は危険が伴います。この先、もしMさんが再び困窮に陥った時でも、彼はもう無縁ではありません。決して路上ではなく、何度でも「ホーム」に戻ってきてほしい、私達はそう願っています。

＊ベトサダの活動は、ホームページにも掲載しています。アクセスしてください。
ＮＰＯ法人　自立支援事業所　ベトサダ
hp：http://www. npo-bethesda.com/

hidarimakiのこの逸品

鳥

監督：アルフレッド・ヒチコック
脚本：エヴァン・ハンター
衣装：イーディス・ヘッド
キャスト：ロッド・テイラー
テッピー・ヘドレン
ジェシカ・タンディー
製作：68 年米
カラー作品／120min
DVD 発売元：ジェネオン・ユニヴァーサル

ペットを連れ動物たちの糞尿を垂れ流す輩でまちが汚れている。僕が住むまちの道路や商店街は言うに及ばず、幹線道路にある植栽の中央分離帯では、犬のトイレ化が常態になっていて、人が犬を連れて踏み入り、おまけにゴミなども捨てるものだから植栽が荒れ果てている。まちはあちこちで異臭を漂わせているのだが、勿論人間の放尿などの無作法も基底にはしっかりあるのだ。

人は品種改良されたような変テコな犬を何故かカワイイといって可愛がっている。孤独感や寂しさ、人とのかかわりへの不安や不信感も手伝って、ペットを必要としているのだろう。愛玩物として甘やかしたり服従させたりして心の欠落感を埋めているのだ。

とくに最近では新聞などでも我がペット自慢のような記事が当然のように大きく掲載されていて不気味このうえない。人間の都合勝手でペット化された犬猫たちがなんとなく可愛そうに思え、反乱でも起こし、動物依存の独善的な人間どもに噛みついてやれなどと多少悪意も湧いてくる。

犬猫ではないがたくさんの鳥たちが人間に反乱を起こしたことがある。「2001 年宇宙の旅」（なび 11 月号参考）がロードショーされた同年だった。こちらはアルフレッド・ヒチコックというおじさんが、鳥たちを調教し人間を襲わせ「鳥」という仰天の映画を作ってしまったのである。

異常にカモメたちが騒ぐシーンから、ボート上の人を襲う鳥たちのシーン。暖炉からすさまじいスズメが侵入し、ドアや窓さえ何の防御の役にも立たず、鳥たちの殺意に人々は逃げ惑う。とりわけ人気のない校庭のジャングルジムに、刻一刻カラスたちがどこからともなくゆっくりと集まりはじめ、徐々にその数を増やしていく。気がつけばおびただしい数のカラスが、ジムや校舎を真っ黒に染めて独占してしまうシーンは、鳥たちが意図を持つ生物としてのありえなさに恐怖の感動があった。この映画では特定な鳥だけではなく、種々雑多な鳥たちが協定（？）を組み大群で人を殺傷する。それは無差別テロのように際限なく、人間の混乱ぶりをあざ笑うのであった。

思いもしない現実に戸惑う人たち。そんな騒乱の中で人間同士の愛憎や和解の心理と、殺人集団である鳥たちが繰り返す波状攻撃の、人と動物のミステリアスをたくみに重ねた、ヒチコックならではの才腕をものすごいと思ったのである。

「レベッカ」「サイコ」「北北西に進路をとれ」「裏窓」などなどたくさんの名作を作ってきたヒチコックだが、これは彼が初めてクリーチャーを素材にして、人間どもの敗退を描いた秀逸なホラーフィルムであった。

ｈｉｄａｒｉｍａｋｉ